2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月９日

上 場 会 社 名	株式会社第一興商	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	7458	URL	https://www.dkkaraoke.co.jp/
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長	（氏名）	保志　忠郊
問合せ先責任者	（役職名） 経理部長	（氏名）	西原　康尚　　(TEL) 03 (3280) 2151
半期報告書提出予定日	2026年11月12日	配当支払開始予定日	2026年12月４日

決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有　　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	84,412	5.2	10,568	25.4	10,936	27.1	6,844	11.9
2026年３月期中間期	80,276	8.0	8,430	△6.3	8,606	△4.3	6,117	△36.3

（注）包括利益　　2027年３月期中間期　　7,722百万円（　26.3%）　　2026年３月期中間期　　6,116百万円（△37.6%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	66.21	65.98
2026年３月期中間期	58.93	58.76

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	221,028	129,085	57.6
2026年３月期	220,445	125,349	56.1

（参考）自己資本　　2027年３月期中間期 127,310百万円　　2026年３月期 123,640百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	28.00	―	39.00	67.00
2027年３月期	―	34.00			
2027年３月期(予想)			―	34.00	68.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	169,000	3.7	19,300	7.7	19,700	7.9	12,600	△20.7	121.88

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	103,968,400株	2026年３月期	103,968,400株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	591,507株	2026年３月期	591,507株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	103,376,893株	2026年３月期中間期	103,813,806株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】Ｐ．４「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 4
（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況 …… 4
（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
（中間連結損益計算書） …… 7
（中間連結包括利益計算書） …… 8
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（セグメント情報等） …… 11

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2026年４月１日～2026年９月30日、以下「当中間期」という）におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善や堅調な設備投資を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、継続する物価上昇の影響や海外情勢の変化、通商政策の動向などによる経済への影響が懸念され、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当カラオケ業界におきましては、主力市場であるナイト市場およびカラオケボックス市場を中心に需要は底堅く推移するなか、各商圏の中心地における事業者間の競争は引き続き活発な状況となっております。

このようななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当中間期の業績は、売上高は中間期における過去最高となる84,412百万円（前年同期比5.2%増）となり、営業利益は10,568百万円（同25.4%増）、経常利益は10,936百万円（同27.1%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は6,844百万円（同11.9%増）となりました。

（百万円）

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売　　上　　高	80,276	84,412	4,135	5.2%
営　業　利　益	8,430	10,568	2,138	25.4%
経　常　利　益	8,606	10,936	2,330	27.1%
親会社株主に帰属する中間純利益	6,117	6,844	727	11.9%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（業務用カラオケ）

当事業におきましては、市場は全体として底堅く推移し、当中間期末のＤＡＭ稼働台数は前年同期と比べ微増となりました。

昨年４月に発売いたしましたＤＡＭの最上位モデル「LIVE DAM WAO!（ライブダムワオ）」においては、“推し活”を応援する新コンテンツ「推しカメライブ」を搭載したほか、ライブやアニメ等の「本人映像」をさらに拡充してＤＡＭの商品力強化を図るとともに、テレビ番組をはじめとするメディアや、各種イベントとのタイアップを積極的に推進することで、カラオケに対する需要喚起と新たな機能・コンテンツの訴求に努めました。主力市場であるナイト市場・カラオケボックス市場においては、「LIVE DAM WAO!」を中心に、旧機種からの効果的な入替えを推進することにより、ＤＡＭ１台あたりの収入増加に努めました。介護施設等のエルダー市場においては、訪問営業やオンラインコンサートの実施などを通じて、エルダー市場専用機「FREE DAM LIFE（フリーダムライフ）」の拡販と、介護現場における職員の負荷軽減に繋がる機能の訴求に努めたほか、大学等との共同研究を通じて「歌うこと＝健康」という認知拡大に努めました。

以上の結果、前年同期にあった新商品効果が剥落し、卸売を中心とした商品販売売上が減少したものの、機器賃貸料や情報提供料といったストック収入の増加により、売上高は前年同期比0.9%の増収となりました。利益面におきましては、ストック収入からの粗利が増加したほか、プロモーション費用などの販管費が減少したことなどにより、営業利益は前年同期比19.6%の増益となりました。

（百万円）

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売　　上　　高	33,644	33,953	308	0.9%
営　業　利　益	6,236	7,457	1,221	19.6%

（カラオケ・飲食店舗）

当事業におきましては、カラオケ４店舗、飲食10店舗の出店及びカラオケ５店舗、飲食５店舗の閉店を行ったことにより、当中間期末の店舗数はカラオケ520店舗、飲食172店舗となりました。

店舗の集客は堅調に推移し、当中間期の既存店売上高はカラオケ店舗で前年同期比３％増、飲食店舗で同４％増となりました。

このようななか、ビッグエコー店舗においては“BIG SMILE, BIG ECHO. 歌おう、笑おう、みんなともっと”をスローガンに、メーカー直営店としてカラオケ機器、音響、美観といったクオリティ向上による顧客満足度向上に努めるとともに、多様なアーティストやアニメ作品とのコラボレーション企画等を積極的に展開し、カラオケを通して様々な喜びと楽しさの創出に努めました。また、ダーツバー「B-GARAGE」の併設や、荷物預かりサービスとの提携など、好立地を生かして店舗の収益力強化に繋がる取り組みを推進いたしました。

飲食店舗においては、予約受注が好調に推移するなかで、店舗環境、接客サービス、料理のクオリティ向上を図りました。また、９月には、東京駅直結の「TOFROM YAESU」へ「八重洲キッチン」、「八重洲ハイボールバー」の２店舗を出店したほか、飲食とアミューズメントの複合店舗「MARUNOUCHI BASE」及び「SHINAGAWA PIVOT」が収益に貢献いたしました。

以上の結果、既存店における増収に加え、出店やＭ＆Ａによる店舗数の増加などにより、売上高は前年同期比7.4%の増収となり、営業利益は前年同期比16.2%の増益となりました。

（百万円）

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売　　上　　高	33,656	36,149	2,492	7.4%
営　業　利　益	2,432	2,826	394	16.2%

（音楽ソフト）

当事業におきましては、新人アーティストの発掘とヒット曲の創出に努めるとともに、カラオケを中心とする自社メディアを活用した音楽出版事業にも注力することにより、堅実な収益モデルの構築に努めました。当中間期におきましては、「純烈」の弟分グループとして４月にメジャーデビューいたしました「モナキ」のデビューシングル「ほんまやで☆なんでやねん☆しらんけど」などが収益に貢献いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比6.8%の増収となり、営業利益は前年同期比74.7%の増益となりました。

（百万円）

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売　　上　　高	2,628	2,808	179	6.8%
営　業　利　益	110	192	82	74.7%

（その他）

当事業におきましては、新たな収益の柱とするべく「ザ・パーク」ブランドで展開するパーキング事業の業容拡大が進展し、当中間期末時点で約4,600施設、53,000車室となりました。また、「スターデジオAir」等で展開するＢＧＭ事業や、家庭用カラオケサービス「カラオケ@ＤＡＭ」についても堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高はパーキング事業収入が増加したことなどにより前年同期比11.2%の増収となり、営業利益は前年同期比28.4%の増益となりました。

（百万円）

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売　　上　　高	10,346	11,501	1,154	11.2%
営　業　利　益	1,436	1,844	408	28.4%

（２）当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ582百万円増加し、221,028百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では受取手形及び売掛金が1,285百万円及びその他に含まれる前渡金が1,049百万円それぞれ増加し、現金及び預金が3,696百万円及び棚卸資産が2,919百万円それぞれ減少しております。

固定資産ではカラオケ賃貸機器が1,384百万円、カラオケルーム及び飲食店舗設備が1,092百万円及び投資有価証券が1,896百万円それぞれ増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,153百万円減少し、91,942百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債ではその他に含まれる未払金が2,263百万円減少しております。

固定負債では長期借入金が733百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,736百万円増加し、129,085百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益による利益剰余金の増加6,844百万円及び剰余金の配当による利益剰余金の減少4,031百万円によるものであります。

（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,696百万円減少し、44,779百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの概況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前中間純利益が10,819百万円、減価償却実施額が8,326百万円、売上債権の増加額が1,278百万円、棚卸資産の減少額が2,925百万円及び法人税等の支払額が4,644百万円等により、前中間連結会計期間に比べ4,263百万円増加し、16,062百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が10,818百万円、無形固定資産の取得による支出が1,773百万円、映像使用許諾権の取得による支出が1,144百万円及び投資有価証券の取得による支出が870百万円等により、前中間連結会計期間に比べ1,364百万円増加し、14,981百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、長期借入れによる収入が180百万円、長期借入金の返済による支出が975百万円及び配当金の支払額が4,028百万円等により、前中間連結会計期間に比べ8,498百万円減少し、4,885百万円となりました。

（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年８月６日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	48,841	45,145
受取手形及び売掛金	6,990	8,275
棚卸資産	14,023	11,103
その他	7,540	8,993
貸倒引当金	△185	△168
流動資産合計	77,209	73,350
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	10,386	11,770
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	16,499	17,592
土地	53,282	53,282
建設仮勘定	114	501
その他（純額）	18,076	17,934
有形固定資産合計	98,361	101,081
無形固定資産		
のれん	7,435	7,127
その他	6,137	6,169
無形固定資産合計	13,572	13,296
投資その他の資産		
投資有価証券	6,429	8,326
敷金及び保証金	14,772	14,922
その他	10,193	10,139
貸倒引当金	△94	△88
投資その他の資産合計	31,301	33,299
固定資産合計	143,235	147,678
資産合計	220,445	221,028

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,375	2,683
短期借入金	3,196	3,087
未払法人税等	5,097	4,297
賞与引当金	1,073	1,526
その他	15,609	12,971
流動負債合計	27,351	24,566
固定負債		
長期借入金	51,682	50,949
役員退職慰労引当金	623	638
退職給付に係る負債	9,291	9,544
資産除去債務	2,078	2,037
その他	4,068	4,206
固定負債合計	67,744	67,376
負債合計	95,096	91,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,211	4,211
利益剰余金	106,897	109,710
自己株式	△1,195	△1,195
株主資本合計	122,263	125,076
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,492	2,218
土地再評価差額金	△158	△158
為替換算調整勘定	191	314
退職給付に係る調整累計額	△148	△140
その他の包括利益累計額合計	1,376	2,233
新株予約権	462	519
非支配株主持分	1,246	1,255
純資産合計	125,349	129,085
負債純資産合計	220,445	221,028

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	80,276	84,412
売上原価	52,591	54,582
売上総利益	27,685	29,829
販売費及び一般管理費	19,254	19,260
営業利益	8,430	10,568
営業外収益		
受取利息	25	76
受取配当金	131	130
受取保険金	55	57
受取協賛金	234	92
為替差益	－	45
受取補償金	0	50
その他	358	346
営業外収益合計	806	799
営業外費用		
支払利息	206	317
為替差損	22	－
解約違約金	16	15
支払和解金	300	7
その他	85	91
営業外費用合計	631	431
経常利益	8,606	10,936
特別利益		
固定資産売却益	972	105
投資有価証券売却益	0	－
特別利益合計	972	105
特別損失		
固定資産処分損	108	138
減損損失	104	83
特別損失合計	212	221
税金等調整前中間純利益	9,365	10,819
法人税、住民税及び事業税	3,341	3,915
法人税等調整額	△109	38
法人税等合計	3,231	3,954
中間純利益	6,134	6,865
非支配株主に帰属する中間純利益	16	20
親会社株主に帰属する中間純利益	6,117	6,844

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	6,134	6,865
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	726
為替換算調整勘定	2	123
退職給付に係る調整額	△16	7
その他の包括利益合計	△17	857
中間包括利益	6,116	7,722
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	6,100	7,701
非支配株主に係る中間包括利益	16	20

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	9,365	10,819
減価償却費	7,932	8,326
のれん償却額	266	411
減損損失	104	83
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△90	15
受取利息及び受取配当金	△157	△207
支払利息	206	317
為替差損益（△は益）	△4	△108
投資有価証券売却損益（△は益）	△0	－
固定資産処分損益（△は益）	△864	32
売上債権の増減額（△は増加）	202	△1,278
棚卸資産の増減額（△は増加）	△681	2,925
カラオケ賃貸機器の売上原価振替	52	32
前渡金の増減額（△は増加）	△99	△995
仕入債務の増減額（△は減少）	33	300
未払金の増減額（△は減少）	△649	537
その他	516	△224
小計	16,134	20,991
利息及び配当金の受取額	156	174
利息の支払額	△212	△457
法人税等の支払額	△4,279	△4,644
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,798	16,062
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10	△10
定期預金の払戻による収入	10	10
有形固定資産の取得による支出	△11,056	△10,818
有形固定資産の売却による収入	1,466	117
無形固定資産の取得による支出	△1,929	△1,773
映像使用許諾権の取得による支出	△2,160	△1,144
投資有価証券の売却による収入	5	－
投資有価証券の取得による支出	－	△870
事業譲受による支出	－	△171
貸付けによる支出	△431	△115
貸付金の回収による収入	174	95
敷金及び保証金の差入による支出	△371	△378
敷金及び保証金の回収による収入	205	248
その他	479	△171
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,617	△14,981

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	925	△47
長期借入れによる収入	990	180
長期借入金の返済による支出	△10,368	△975
配当金の支払額	△3,030	△4,028
自己株式の取得による支出	△1,884	－
その他	△14	△14
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,383	△4,885
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	108
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△15,197	△3,696
現金及び現金同等物の期首残高	41,584	48,475
現金及び現金同等物の中間期末残高	26,387	44,779

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額
	業務用カラオケ	カラオケ・飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	33,644	33,656	2,628	69,929	10,346	80,276	－	80,276
セグメント利益（営業利益）	6,236	2,432	110	8,779	1,436	10,216	△1,785	8,430

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びＢＧＭ放送事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△1,785百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額
	業務用カラオケ	カラオケ・飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	33,953	36,149	2,808	72,911	11,501	84,412	－	84,412
セグメント利益（営業利益）	7,457	2,826	192	10,477	1,844	12,322	△1,753	10,568

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びＢＧＭ放送事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△1,753百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。